

あこぎつておびららん
んごんがれ
本年も宜しく
お願い致します
元旦



 正法寺新聞

新コーナースタート!

- ◆おこみちだより
- ◆仏事あれこれ
- ◆たかこの寺フォト日記

入もいなのです
生きられる人は
迷惑をかけずに



2026.1
第27号
正法寺発行



司会は南無船会
濱本さんです。

帰敬式は本堂で執行します。まずは
受付し、肩衣をかけます。南無船会の
みなさんがサポートして下さいます！



受式者には、本山より
肩衣・赤本・真宗門徒の生活・
バッグが贈られます。



剃刀の儀(おかみそり)。
住職がおひとりおひとりにかみ
そりを頭にあてる形
で行います。



法名伝達。一人ずつ前に出て
受け取ります



執行しました

正法寺で帰敬式

令和七年 十二月五日 十三時半より



誓いの辞は、
玖島の富地さんが
代表で読まれました。

- ① 開式の辞
- ② 真宗宗歌斉唱
- ③ 三帰依文唱和
- ④ 剃刀の儀
- ⑤ 執行の辞
- ⑥ 法名伝達
- ⑦ 誓いの辞
- ⑧ 法話
- ⑨ 恩徳讃斉唱

※今年も12月5日に帰敬式執行
の予定です。まずは、毎月28日
の「行いがわたしを導く時間」
に通って準備するのをおすすめ
します！



住職による帰敬式法話。儀式
の持つ意味、今後の生活への
願いなどをお話しました。



5名の方が「法名」を受けられ、
仏弟子としての歩みを始められること、
大変うれしく思います。ご希望の方は、
今年12月に受式しましょう。

「おこみちだより」
参加者からみなさんへ
記事をおとどげします！

毎月28日 13:30~15:30

しんらん聖人ご命日のつどい

行いが
わたしを
導く時間

報恩の心に学ぶ
自分との向き合い方

SHINSHUJOTANIHA-SENNENZAN-SHOBUJI

SHINSHUJOTANIHA-SENNENZAN-SHOBUJI

正法寺

参加費500円

月一報恩講『行いがわたしを導く時間』
(通称おこみち)、昨年も多くの方にご
参加いただきました。お寺の本堂に上
がったことのない方もまずは一度、お
越しく下さい！参加予約はいりません。
今年も3月からスタート！



今回のレポーター

【宮田敦子】

片町在住。昨年の推進員
養成講座を受講後、現在
は南無船会や洗心会の他、
お寺の奉仕活動にも積極
的に参加中！

正法寺の坊守さん
(ナム子さん)が一昨
年から始められたポツ
ドキャスト(ネットの
音声配信番組のこと)
『BMナム子のお寺の
キッチンラジオ』は、ナム子さん
の元気な語り口調が心

おこみち参加2年目の宮田と申します。
今回は、おこみち参加者の多くが聴い
ている坊守さん配信の『BMナム子のお
寺のキッチンラジオ』について詳しく
ご紹介します！

地よく、思わずこちら
も元気になる配信番組
です。内容は仏教やお
寺のこと以外に、お料
理のレシピなどもあり
ます。ナム子さんの人
柄が出ている番組です。
ぜひみなさんも聴いて
みてください！

坊守さんにお願いと
ステッカーシールがもらえます



このQRコードから聴けま
す
が下記のアプリをインストー
ルし、アカウントも作るとお便り
も出来ますよ！



ナムラジ検定クイズ



①BMとは何のこと？

②ナムラジの冒頭で
演奏される楽器は？

②正法寺の宗派は？

ナムラジでもあった
ナムラジ検定クイズ。
ラジオを聴いて答え
てみましょう！答えを
坊守さんに言う
プレゼントあり！



← iPhoneの方はこ
ちらからアプリをダウ
ンロードできます！



Androidの方はこ
ちらからアプリをダウ
ンロードできます！→

令和7年
12月5日～12月8日
準備は12月1日より

みんなで作る報恩講へ

新しい体制での
「報恩講」おかげさまで
二年目も無事終了!!



お餅を準備します



幕を張っています



一年でもっとも厳かな
お飾りになります!



仏具をお磨きします



幕を片づけています



お餅をみなさんにおさがりして終了!

「みんなで作る報恩講へ」と銘打って再スタートした親鸞聖人ご命日の法要「報恩講」も二年目! 結束力が昨年よりも強まったと感じられる法要期間でした。ご門徒全員の参加を目指しましょう!

報恩講中はどんな雰囲気??



お斎(昼食)は、精進カレーやぜんざい、酢の物、赤飯をみなさん一緒にいただきました!

開催が危ぶまれた夜の法座も今年はやってみよう!と実施。少し参詣者も増えました!



報恩講でしかお掛けしない「御絵伝」の巻物を見ながら先生から絵解きをしていただきました!



正法寺職員の宮崎貴子です。

『たかこの寺フォト日記』では日常の些細なことなどを掲載していきます！

今回は、「報恩講」にて皆様といただいた【**精進カレーとおぜんざい**】の写真。精進カレーにはお肉が入っていないのは分かりますが、皆さんでいただいたカレーの具には何が入っていたか分かりますか？自宅で作る時に使っている玉ねぎやじゃがいも・人参の他、お肉代わりに**厚揚げ**を使っています。**煮大豆**、**コーン**、**トマト**なども入っていますよ。そして

おぜんざい。こちらもお餅含め、全て台所奉仕の方の手作り。炊いた二日後くらいがちょうどいいあんばい。まだ食べたことがない方は、今年ぜひ『**報恩講**』にお越しください！



洗心会活動報告

敬老会を開催しました！



昨年10月19日(日)、毎年恒例の

敬老会を開催しました。数年前から年齢制限は設けておらずみなさん一緒にお祝いしております。今年は男性3名、女性18名に参加いただき賑わいました。

(会長・堀出美智子)



21名の参加者がありました！



みつつけた！



TORI-K
(トリケー)

本町436-6田中ビル101
0957-40-0141
木曜定休日

今回は、大村のバンドマンの聖地ともいえる「TORI-K(トリケー)」さんです。ここのおすすめは数々のバンドマンが愛してやまないマスター自慢のハンバーグ。この日はランチ時間に伺ったので、ランチメニューから「ハンバーグ&タルチキプレート」を注文しました。十分ほどで、手作りのドレッシング、タルタルソースがかかったサラダ、チキン。そしてお目当てのアツアツハンバーグがワンプレートで登場。肉汁がしっかり閉じ込められていて箸で割ると幸せな液体がこぼれてきました。寒さが厳しいこの時期に是非ご賞味ください。不定期にライブもあっているのので、興味ある方は直接お問合せください。

【文責/島田】



仏事あれこれ

数珠と念珠の違いは？

数珠は百八個の珠を基本として、糸を通して、輪の形になっている仏具です。一つずつ繰り、念仏やお経を数えるために使うことから、**数える珠で数珠（珠数）**と呼ばれます。

様々な念珠



手首につける

腕輪念珠



念仏などの回数にこだわらない浄土真宗では**念珠**と呼びます。

【念仏するとき**身につける数珠**】と覚えておきましょう。仏さまの前で合掌礼拝するときは、必ず念珠を手にかかけます。

合掌の仕方



仏さまの前で両手を合わせ、念珠を親指と人さし指の間にかけます。手首はみぞおちのあたりに、ひじを張らず、指と指のすき間をつくらず、指先をまっすぐ伸ばします。横から見ると、手の線は四五度くらいの角度です。そして「**南無阿弥陀仏**」と称えます。合掌しないときは、左手で持ちましょう。

念珠は仏具！
床の上などに
直に置かない
ようにしましょう！



一輪のときは、親玉を下にしてかけます。手は静かに合わせましょう。



二輪で長房のときは、親指のところまで二つの親玉をはさみ、房を左手側に下げます。



蓮如上人が書き伝えたお手紙より

仏をば手づかみにこそせられたり。
聖人（親鸞聖人）、
まったく珠数をすてて
仏を拜めと仰せられたることなし。

（文責／法務員 谷）

引用：『浄土真宗 仏教・仏事のハテナ？』東本願寺出版
『仏具ひとくちメモ 作法・行事編』東本願寺 真宗会館



住職が語る『正信偈』 第27回



さんぶさんしんけおんごん
三不三信誨慙

ぞうまほうめどうひいん
像末法滅同悲引

いっしょうぞうあくちぐぜい
一生造悪値弘誓

しあんにようかいしょうみやうか
至安養界証妙果

道綽禪師は『安樂集』という書物をお書きになります。その著書の背景として今が末法まっぼうの世であること、そして末法であるが故に、仏道を歩むことが非常に困難な時代状況にあり、そこで生活する人々の才覚も欠如しているということが思索の根底に流れています。この末法の時代に求められる教えは何か、その課題をあきらかにするために、『安樂集』の中で仏道を聖道門と浄土門の二つに分けて説いてくださっています。そして末法の世に生きる我々には、自力の修行を求めていく聖道門の教えは非常に困難であり、阿弥陀如来の名号を称える浄土門の仏道こそがこの時代にふさわしいと人々に勧めてくださったというのが前回までのあらすじとなります。今回はそのつづきとして道綽禪師があきらかにしてくださった「三不三信の誨おしえ」からを見ていきましょう。

「三不三信」とは、3つの不信である三不信と3つの信である三信をあらわします。三信とは淳心・一心・相続心の3つで、三不信とはそれに相反する三つの心です。淳心は純粋な心をあらわし、一心は定まったゆるぎのない心を示します。また相続心はかわらず持続し続ける心のことです。「誨けおんごん慙」というのは、誨は教えさとすことを意味し、慙は丁寧な様をあらわします。念仏すれば助かるというのが浄土門の教えですが、念仏しても助からない人がいるのはなぜなのでしょう、それはお念仏の教えを信じるのできない私たちの心の問題ではないかと、丁寧に教えさとしてくださっているのです。疑い混じりけのない心で二心なく変わらぬお念仏しているのかと、お念仏における信心の大切さを説いてくださっているのです。

さて、お釈迦様が亡くなってから五百年は正しい教えが伝わりまします。ですが段々と像かたちだけになっていき、やがて末法になり衰退していくなかで教えは消滅していきます。それが「像末法滅」という時代の流れです。そのような状況を悲しみ、どんな時代にあっても同じように人々が救われて欲しいと願い導いてくださっていることを「同悲引」と親鸞聖人は道綽禪師の業績を讃えておられるのです。

最後に「一生造悪値弘誓 至安養界証妙果」という言葉でこの段落は締めくくられます。「一生の間、様々な悪を生み出して生きる私たちであるけれども、その人生においてあらゆるものを救いたいと願われた阿弥陀如来の広大な誓いに出遇ったならば、安らかな心で身を養う世界である浄土に至り、この上ないさとりをひらくであろうと道綽禪師は仰った」ということです。

末法の世において煩惱にまみれて生きる私たちですが、そんな助かるはずのない者が、お念仏の教えに導かれて安樂の世界に生まれていく。阿弥陀仏の浄土で仏となっていく。本来、末法と云うのは助かるものがほぼほぼいない絶望的な時代です。そのような時代に生きる私たちのために阿弥陀仏は安樂の浄土をたて、そこに向かって歩んでいくためのお念仏を用意してくださった。その如来の恩徳を親鸞聖人は、道綽禪師の言葉をおして味あわれたのではないでしようか。